

縄文イベント情報

* 詳細は、チラシやホームページ等でお知らせします。



北の縄文パネル展 2018 春

■日 時：5月14日（月）～16日（水）
■場 所：北海道庁本庁舎1階 道民ホール（札幌市）
■内 容：世界遺産登録推進事業の紹介（パネル展示）、
プロモーション映像上映 など



入場無料

■主催・問合せ：北海道環境生活部 文化局文化振興課 縄文世界遺産推進室 011-204-5168

考古学カフェ

■日 時：6月2日（土）10:00～18:00
■場 所：札幌駅前通地下広場【チカホ】札幌駅側イベントスペース（札幌市）
■内 容：各自治体の持ち寄った出土品の展示、石器づくり、土器づくりデモンストレーション、
体験コーナー など

入場無料

■主催：北海道縄文のまち連絡会 ■問合せ：（事務局/伊達市教育委員会生涯学習課）0142-23-3331

縄文夏まつり

■日 時：7月5日（木）～8日（日）
■場 所：札幌駅前通地下広場【チカホ】札幌駅側イベントスペース（札幌市）
■主 催：北の縄文道民会議 ほか
■内 容：縄文土器などの出土品展示、北の縄文パネル展、北の縄文セミナー など

入場無料

■問合せ：北海道環境生活部 文化局文化振興課 縄文世界遺産推進室 011-204-5168

NEW 縄文パンフレットをお届けします！



北の縄文道民会議では、道内各地で盛り上がっている縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた取組や縄文アイテムを紹介する「わくわくドキドキ!! ほっかいどう縄文大集合」を作成しました。道内各地の縄文遺跡を紹介する「HOKKAIDO JOMON MAP」も掲載。

また、北海道庁が作成した「Let's 北の縄文」も同封します。こちらは、縄文文化の魅力を写真・イラストやコラムで紹介。縄文初心者だけでなく、会員の皆さまにも楽しんでいただける内容になっています。

これらのパンフレットを入口に、周囲のご友人達も縄文の魅力のトリコになるかも!? 縄文ファン拡大に向けて、皆さまもご活用ください!!

編集後記

- ◎ 「北の縄文」春号の発行にあたり、越田先生を始めご寄稿いただいた皆様にお礼を申し上げます。
先日、東京で「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産早期登録実現に向けた推進総決起大会が開催されました。いよいよ、私たち「北の縄文道民会議」の活動もトップギアに切り替えるときを迎えました。
「北の縄文遺跡を世界遺産へ」をめざし、会員の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。（T.H）
- ◎ 縄文チームも2年目に突入しました！皆様よろしくお願いします！（M.S）
- ◎ 暖かくなって遺跡巡りにも良い季節となりました！ぜひ足をお運びいただき「縄文の風」を感じましょう！（I.K）

編集・発行：北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議 編集長 谷 紘道 編集委員 村上志保子、井上香織
TEL：011-221-1122 FAX：011-221-0117 <http://www.jomon-do.org/> E-mail ebisutan@cbt.chuo-bus.co.jp



平成30年5月発行

北の縄文コラム

目次	
■北の縄文コラム	1
■道内各地の活動状況	2
■会員メッセージ/縄文トピックス	3
■縄文イベント情報	4

「縄文食と健康」

前号の荒川様のコラムで、故 畑宏明様の思い出の中に、赤れんが庁舎での縄文展開催についてふれられていました。畑さんの指示でこの展示の担当となったのが私でした。期間中は会場に詰めて、大勢の方々が見てくださることに感動していました。

それから15年ほどたち、札幌国際大学の上野八郎理事長から、学内に「縄文世界遺産研究室」を立ち上げる話が出て、私が室長になりました。これも畑さんの縁に繋がっているのです。北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す活動に、大学が地域と連携して協力するのが目標です。ささやかな活動ですが、少しでも世界遺産へ向かっての力になればと思っています。

研究室を立ち上げると、縄文文化について話をする機会が増えました。これまで講義で話した内容を、より分かりやすく、より身近な話として伝えられるように努めています。その一つとして、縄文土器で煮込む魚介類・肉類・山菜類は、日本各地に残る鍋料理の原型だと主張しています。

最近、縄文食が現代の日本人の健康と関連することを、NHK スペシャル『人体』で知りました。ヒトの腸にいる「腸内細菌」の中で、免疫を司る菌が活発になりすぎると、現代人を悩ましているアレルギーなどの症状が出ます。一方、免疫力をコントロールするのがクロストリジウム菌で、Tレグ細胞を作り、免疫菌の活動を鎮めます。つまり、アレルギー症状を抑えるためには、クロストリジウム菌を活性化させる、食物繊維を多くとる必要があることが分かってきたのです。

日本人は、縄文時代のドングリ・クリ・山菜・キノコ食、弥生時代以降の米食のおかげで食物繊維を多く摂取しており、肉食文化の西欧の人々と比べ、ずば抜けて免疫力をコントロールする物質を作り出す能力が高いのだそうです。実際、精進料理を食べている人はアレルギーになりにくいとの調査がなされています。こんなところにも縄文食以来の和食の効果があったのです。



公益財団法人北海道埋蔵文化財センター 理事長 越田 賢一郎
札幌国際大学縄文世界遺産研究室 室長

道内各地の活動状況



函館市で縄文文化の普及活動に取り組まれている「北の縄文CLUB」が、
「平成29年度北海道地域文化選奨」を受賞されました。

「北の縄文CLUB」の大宮会長から受賞にあたってのコメントをいただきましたので、
平成30年2月に函館市内で開催された贈呈式の模様とあわせてご紹介いたします。

「北海道地域文化選奨」とは ～ 北海道庁HPより抜粋 ～

北海道が、道内各地で地域に誇りと愛着をもって文化活動や文化支援活動に取り組まれている個人や
団体・民間企業の方々の活動を広く紹介するとともに、その活動が地域の牽引力とし
てますます大きく広がっていくことを期待して贈呈しています。

【受賞団体のご紹介】

北の縄文CLUBは、平成10年に北の縄文文化
を広く普及することを目的に設立し、縄文の道具づ
くりや各種体験などの自己研鑽により、縄文文化へ
の理解と造詣を深めるとともに、縄文フォーラムや
シンポジウムの開催・参加協力、土器づくり、遺跡
見学案内、各種ワークショップなど、豊富な活動を行
っている。

遺跡の清掃活動やシーニックバイウェイ関連事業
など、各種ボランティア活動にも積極的に参加して
いる。



▲ 平成29年度の受賞者の皆さんで

「北海道地域文化選奨を受賞して」

北の縄文CLUB 会長 大宮トシ子

「北の縄文CLUB」が設立20周年を迎える年に、北海道地域文化選奨という大変名誉ある賞を
いただきました。いまこの喜びを、会員をはじめ地域みんなで分かち合っています。

当CLUBは、平成8年に南茅部町（現函館市）が行った大船遺跡の発掘調査がきっかけで、平成
10年4月に設立されました。この遺跡が縄文時代の大規模集落であることが分かり、そのニュース
が大々的に報道されるのを目の当たりにして、発掘作業員として働いていた私たちは、「この縄文文
化をなんとかしてまちづくりに活用しよう」と立ち
上がったのです。

これまで縄文土器づくり大会などの各種イベント
や史跡大船遺跡の清掃活動などを行ってきましたし、
函館市縄文文化交流センターの縄文まつりなどの地
域イベントとも連携し、縄文文化の魅力を広めてき
ました。

この受賞を機に、さらに地域と一体となって「北
海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録
を応援していきたいと思っています。



▲ 贈呈式での大宮会長



「北の縄文CLUB」の活動は、こちらのホームページでもご紹介されています。

http://www.geocities.jp/joumon_club/index.html

● 会員メッセージ

「遺跡ミュージアム旅のススめ」 北の縄文道民会議員

インテリジェントリンク代表 森影 依

旅をするときには、必ずその土地の遺跡やミュージアムを訪ねます。

「何がそんなに面白いの」と言われることも多いのですが、説明し始めると、
相手の（しまった、話を振らなきゃよかった）という心の声が聞こえるので、ただ
微笑みます。まあ「土偶女子」ならカワイイですが、暑苦しい「土偶オヤジ」では
ねえ……。

では、この「何が？」という問いに一言で答えるとなると、「自分の内側へ
の旅だから」でしょうか。自分は何者であり、どこからきて、どこへいくのか。▲ 大英博物館で出会った
遺跡ミュージアムの旅は、そんな自分と向き合わせてくれます。



▲ 大英博物館で出会った
セルビアの「土偶」

アフリカを出た人類が、中央アジアから東南アジアへ、そして中国大陆から
日本列島へたどり着いた先に自分がある。自分の中に見つけられる様々な縄文人の形質。縄文人の末
裔である自分が世界の様々なものと「つながっている」という実感を、旅は与えてくれます。

函館市縄文文化交流センターで小さな子供の足形付土板に感動された方は多いと思いますが、親と
して生きる思いのつながりに感動するのだと思います。ウィーン自然史博物館では旧石器時代の有
名な「ヴィレンドルフのビーナス」を見ましたが、茅野市の国宝「縄文のビーナス」を作った縄文人
と、＜ビーナスをかたちにする＞思いはつながっていると想像します。メキシコのテオティワカン遺
跡のミュージアムで体育座りする土像を見つけたときには、まるで風張遺跡の国宝合掌土偶だ、と驚
きました。坐る土像には座座のかたちを表現しているという説がありますが、風張遺跡の縄文人とつ
ながった人々が、アジアからベーリング海峡をこえてメキシコに到達したことを想像すると、なんと
も楽しいのです。

自分が世界と、人々とつながっている感覚。偏狭な
民族排外主義や人種主義が力を盛り返そうとして
いる時代のなかで、「違い」によって他者を排撃する
愚かさではなく、「つながる」ものを見つけ共感し合
う方が楽しいに決まっていると、遺跡ミュージアムの
旅は気づかせてくれるのです。



▲ メキシコの座る「土偶」

縄文トピックス

「世界遺産登録推進総決起大会」開催！

平成30年4月23日（月）、東京都内で、縄文遺跡群世界遺産登録推進本部（北海道、青森
県、岩手県、秋田県の4道県市町で組織）、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」世界遺
産登録推進議員連盟、関係道県市町議会、関連団体など総勢200名が参加し、世界遺産早期登
録実現に向けた総決起大会が開かれ、北の縄文道民会議
からも12名の会員が参加しました。

大会では推進本部長の三村青森県知事や副本部長の
高橋はるみ北海道知事などが世界遺産登録へ向けた決意
表明を行うとともに、最後は参加者全員による「頑張ろ
う！」の三唱で締めくくり、世界遺産への登録実現に
向けた熱意と強い結束を確かめました。

